

◆第2部 分野別施策の実施状況

第5章 各分野に共通する施策の推進

第1節 環境を支える人づくり・地域づくり

1 誰もが学べる環境教育の推進

(1) 体験活動の提供

① 里山里海湖学校教育プログラム集【自然環境課】

平成26年度から里山里海湖について、小中学校教員が児童・生徒を指導するためのプログラムを現場の先生方の意見を踏まえながら作成しています。

本体験プログラムは、身近な里山里海湖を実際に体験することにより保全の意識を高め、自主的な活動を促すことを目的としており、全ての小中学校へ配布しました。これにより、小中学校の教員が、「里山里海湖とは何か」、「里山里海湖でどんな活動ができるのか」を知ることができる手引書としての活用と「里山里海湖の恵み」を児童・生徒に実体験させることができるものと期待しています。

なお、これまでに作成した体験プログラムは県ホームページでも内容を閲覧することができます。
 <これまでに作成した体験プログラム>

- ・三方五湖周辺体験プログラム (R6改訂)
- ・北潟湖周辺体験プログラム (R7改訂)
- ・六呂師高原周辺体験プログラム (R7改訂)
- ・丹南地区周辺体験プログラム (R5改訂)



各体験プログラムの内容
(福井県ホームページ)

さらに、それぞれの地域の特性を活かした体験活動を実施することで、より福井の里山里海湖の魅力を実感し、保全・再生の意識を向上させていけるものと考えています。

今後とも、系統立てた環境教育を推進できるよう、学校の年間指導計画に位置付けていけるよう努めていきます。

表5-1-1 令和6年度にプログラムを体験した学校数・人数

	学校・団体数	児童・生徒数
三方五湖	35校・団体	1,167名
北潟湖	110校・団体	4,250名
六呂師	36校・団体	2,372名
丹南	302校・団体	10,622名
合計	483校・団体	18,411名



学校教育プログラム 小学生受講の様子

② 県有施設における環境教育

県の自然保護センターや試験研究機関では、環境に関する展示や情報の提供、自然観察会等の学習機会の提供を行っています。

表5-1-2 県の主な環境教育・学習施設

施設名	概要
自然保護センター (大野市南六呂師)	・県内の自然や環境の保全について紹介する展示 ・プラネタリウム、天体の観察施設 ・自然観察会等の実施
海浜自然センター (若狭町世久見)	・ふれあい水槽、若狭の海湖(うみ)等を紹介する展示 ・自然体験講座の開催
里山里海湖研究所 自然観察棟 (若狭町鳥浜)	・野鳥やヒシ等の自然観察ガイド ・簡単な工作体験や里山里海湖に関する相談受付
年縞博物館 (若狭町鳥浜)	・水月湖年縞の展示
衛生環境 研究センター (福井市原目町)	・環境関連図書、ビデオ等の資料の提供 ・見学者の受入れ ・環境科学体験教室や夏休み衛生環境教室の実施
総合グリーンセンター (坂井市丸岡町楽間)	・緑化推進のための樹木や花の見本園 ・緑や木とふれあい、遊び学べる施設 ・緑と花に関する講座の開催や相談受付
内水面総合センター (福井市中ノ郷町)	・河川や淡水魚に関することなどの展示

(2) ふくいの未来へつなぐ環境学習事業

【環境政策課】

県内の小学生を対象とした、ワークショップ形式の環境学習事業です。本事業は「見て、体験して、学ぶ」ことをコンセプトとし、環境保全に寄与する技術を有する県内の企業・団体の協力を得て実施しています。令和7年度は、敦賀市、坂井市、大野市で各2回（計6回）のイベントを開催しました。

7月22日には、福井県民生活協同組合の協力のもと、敦賀市のCOOP黒河川水力発電所を見学し、発電の仕組みを学びました。ハーツつるがではエシカル消費について学びました。

8月1日には、北陸電力株式会社の協力のもと、三国風力発電所を見学しました。その後、キットを用いて風力発電機を製作し、風力発電機の仕組みについて理解を深めました。

8月5日には、株式会社福井グリーンパワーの協力のもと、木質バイオマス発電所を見学し、発電の仕組みを学びました。その後、福井県自然保護センターでプラネタリウムを見学し、光害について学びました。

いずれの回も、カーボンニュートラルについて理解を深める機会となりました。



COOP 黒河川水力発電所の取水口を見学する様子（第1回）



風力発電機を製作する様子（第2回）



バスから木質バイオマス発電所の施設を撮影する様子（第3回）

◆第2部 分野別施策の実施状況

(3) 環境・エネルギー教育支援事業

【義務教育課・高校教育課】

県内の小・中・高等学校を対象に、地域の特色に応じた実践を通して、児童・生徒の理解を深め、自ら考え、判断し、よりよく環境・エネルギー問題を解決する力を育成することをねらいとした「環境・エネルギー教育支援事業」を推進しています。

小学校では、電流の働き・電気の利用黒板実験セットや直流交流電源装置等を購入し、発電について学習する教材の活用やエネルギー教育関連施設の見学を通して、環境・エネルギー教育を進めています。

中学校では、滑車実験器や手回し発電実験模型等を購入し、実験や観察を通してエネルギーの変換について正しい知識と科学的な理解を深める授業を充実させています。

高等学校では、発電コイル実験器や渦電流実験器、ペルチェ素子実験器等を利用した実験を通し、エネルギー環境について探究的に学習するなど、発展的な環境・エネルギー教育を進めています。さらに、専門家による講演会や施設見学会等を通してエネルギー問題や放射線に対する理解を深める取組みを実践しています。

今後も、各校の取組みを県内全体に広め、環境・エネルギー教育の一層の普及に努めていきます。

表5-1-3 環境・エネルギー教育支援事業取組状況

内 容	5年度	6年度	7年度
環境・エネルギー教育に関連する施設等 の見学	15校	14校	14校
講師による講演や意見 交換会での指導および 助言	2校	1校	1校
エネルギー教育に関 する資材・機材の活 用方法の研究	47校	99校	54校

(4) 大学生のエコラーニング事業【環境政策課】

県内の大学生を対象とした、将来の環境活動を担う人材の育成を目的とした事業です。本事業では、屋外での体験活動を伴うワークショップを中心として、環境保全全般について考えるラーニングイベントで、令和7年度は福井県まちづくりセンターに委託し、「大学生限定！アウトドア体験ツアー」として4回実施しました。

第1回ツアーは「海洋環境」をテーマに開催し、学生は若狭湾でのSUP体験を通じて海洋ごみ問題への理解を深めました。第2回ツアーは「生き物の命」をテーマに開催し、学生は害獣や外来種を活用した食体験を通じて、命の尊さや野生生物との共存について学びました。第3回ツアーは「企業の環境への取組み」をテーマに開催し、学生は企業のSDGsへの取組みを学ぶとともに、自身が着用していた服を使ってエコバッグを製作しました。第4回ツアーは「海から考える、環境のこと。」をテーマに開催し、ビーチクリーン体験をしました。その後、カーボンニュートラルカードゲームを実施し、経済成長と環境問題の両立について理解を深めました。

いずれの回も、若者の環境に対する理解と関心を高める貴重な機会となりました。



イノシシを捌く様子（第2回）



エコバッグを製作する様子（第3回）

(5) こどもエコクラブ活動への支援

こどもエコクラブとは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加できる全国的な環境活動クラブの組織です。こどもエコクラブは子どもたちの主体的な環境保全活動や環境学習の支援を目的としており、学校の生徒と先生、家族単位、町内の子ども会など、気軽にクラブ登録を行うことができます。福井県内では、令和7年11月末現在で36クラブ2,652人の子どもが登録しており、各クラブで様々な活動を行っています。

こどもエコクラブの本県事務局は環境ふくい推進協議会^{*1}が担っており、各クラブの活動に対して助成事業を行っています。令和7年度は、森田中学校で地域住民と生徒が協力し、ごみ拾い活動に取り組みました。また、福井市六条小学校では家庭から不要となった子ども服を回収し、難民に届けることでリユースを促進する活動を行いました。これら2つのクラブに対し、活動に必要な物品の調達について支援を実施しました。

また、こどもエコクラブの全国事務局では登録クラブを対象とした「全国エコ活コンクール」を開催しており、環境活動に関する壁新聞や絵日記、デジタル作品の募集を行っています。このコンクールで県代表作品に選出されたクラブには「こどもエコクラブ全国フェスティバル」への参加権が与えられ、環境ふくい推進協議会ではこちらの参加に係る助成も行っています。

分野別施策の
実施状況



ごみ拾いをする様子（福井市森田中学校）



難民に届ける子ども服（福井市六条小学校）

各分野に共通する
施策の推進

^{*1}環境ふくい推進協議会：環境保全にかかる県民、団体、企業のネットワークづくりおよび地域に根ざした活動の育成を図り、継続的かつ着実な環境保全活動の推進を図ることを目的として、平成6年10月に設立された団体です。

◆第2部 分野別施策の実施状況

(6) 環境アドバイザー

県では、環境保全についての有識者や環境保全活動の実践者を環境アドバイザーとして登録し、各種団体や学校・公民館等が主催する環境問題に関する学習会や講演会の講師として派遣しています。

環境アドバイザー派遣事業では美しい福井の環境を県民の手で守り育てることを目的に、環境保全に関する講演会や現地指導を実施しています。現在98名(令和7年11月末現在)の環境に関する専門家が登録されています。

学習会等の内容は、環境問題やリサイクル、省エネ、自然保護などの講座や山や海での自然体験など多岐に渡り、皆さんに楽しく環境について学んでいただいています。この制度により、県民の環境問題への関心や環境保全に対する取組みの意識が高まってきています。

表5-1-4 環境アドバイザー派遣実績

	令和6年度	令和7年度
派遣人数	138人	136人
受講者数	3,018人	2,853人

(令和7年11月末時点)



環境アドバイザーによる学習会

(7) 環境教育推進事業

本事業は、自然体験と環境教育を通じて、参加者の環境への理解を深め、環境を保全しようとする意識を育むことを目的としています。

令和7年度は『九頭竜湖であ・そ・ほ』と題し、参加者が自然物に触れることで気付きを得られるような内容を企画しました。運営はノーム自然環境教育事務所が行い、10月に開催しました。

当日は雨天でしたが、森を散策し、見つけた自然物を使って遊んだり、講師から自然物の解説を聞いたりしました。その後、森で見つけた自然物の形や特徴を生かしながらむしづくりを行いました。

自然物を観察したり、講師の解説を聞いたりすることで自然環境への理解を深め、環境保全への意識を育む機会になりました。



森散策の様子



むしづくりの様子

(8) 環境教育情報の発信【環境政策課】

福井県環境政策課のホームページでは、自然体験や環境学習会などの情報を発信しています。特に、小学生向けの事業に関しては当日の活動の様子を環境教育教材としてYouTubeで配信しています。今後も引き続き、県民が幅広く活用できる環境教育教材のデジタルコンテンツ化を進めます。

令和7年度は、「敦賀」と「坂井」と「大野」で環境学習！



令和7年度の事業紹介

令和7年度の活動の様様

環境教育『小学生の活動』（福井県HP）

福井県環境政策課



【環境教育】

分野別施策の
実施状況

各分野に共通する
施策の推進

◆第2部 分野別施策の実施状況

2 活力と資源が最大限に活かされる地域づくりの促進

(1) 県民の環境美化活動

① クリーンアップふくい大作戦【環境政策課】

地域の環境保全に関する県民意識の啓発を図ることを目的として、平成4年度から、県内一斉に住民が主体となって美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しており、平成17年度からは、季節ごとに年4回の統一行動期間を設け、市町や自治体などが一体となって地域ぐるみの美化活動を実施しています。

これらの取組みに加え、令和4年度から、海ごみの発生防止をテーマに、県内河川の上流域から下流域ならびに海岸等において、住民・企業・団体などが清掃を行う「ふくい海ごみゼロチャレンジ」を実施しています。令和7年度は県内すべての自治体と連携し、12月時点で13,000人以上の県民が清掃活動に参加しました。



ふくい海ごみゼロチャレンジ2025
(美浜町 水晶浜海水浴場での清掃活動)

② 自然公園の美化【自然環境課】

自然公園美化思想の一層の普及を図るため、環境省では8月の第1日曜日を「自然公園クリーンデー」として位置付け、全国の自然公園を対象とした大規模な美化清掃活動を実施しています。

実施にあたっては、関係市町その他の団体との連携のもと、地域の一斉清掃などを行っています。

3 環境に配慮した活動の促進

(1) 河川環境美化、河川愛護月間【河川課】

河川環境美化については、地域住民等による活動の広報等を行う「川守」推進事業を展開するとともに、地域住民団体等が行う草刈活動への補助を行う「地域をつなぐ河川環境づくり推進事業」により良好な河川環境の創出に努めています。

また、毎年7月の河川愛護月間には、県庁ホールにて河川愛護のパネル展を実施し、河川愛護に関する意識の啓発を行っています。

(2) 緑と花のふるさとをつくる運動【森づくり課】

県では観光客を美しい景観でおもてなしするため、駅や観光地などで緑や花、花木による景観づくりに意欲的に取り組む団体に対し、費用の一部を補助する「緑と花のまちづくり支援事業」を創設しました。令和7年度は、県内全域の17団体を支援しています。

また、各地域で緑や花について学ぶ研修会の開催や、地域団体が主催する研修会へのアドバイザー派遣などを通じて、緑化や花づくりに取り組む人材の育成を進めています。

さらに、小中学生を対象に、講師の指導のもと、種まきから植え付け・管理までの一連の花づくりを体験する「小中学生ワクワク花づくりサポート事業」を実施し、若い世代に花づくりの楽しさを伝える取組みを行っています。

景観づくりのきっかけから実践まで、幅広い世代への支援を通じて、美しく誇りあるふるさとづくりを推進しています。



小中学生ワクワク花づくりサポート事業
種まきの様子

◆第2部 分野別施策の実施状況

(4) 県民・団体・企業等との連携の強化【環境政策課】

① 環境ふくい推進協議会

環境保全活動を推進していくためには、県民、団体、事業者、行政がお互いに協力し合い、取り組んでいくことが重要です。

このため、県では、県民、団体、企業で構成する環境保全ネットワーク「環境ふくい推進協議会」の運営を支援し、情報紙の発行やセミナーの開催などを通じ、環境保全に関する意識の啓発を図ってきました。

環境ふくい推進協議会は、県民が一体となって進める環境保全に関する県民運動を実践することを目的として、平成6年10月に設立された団体です。協議会では、環境保全活動の輪を広げるための様々な事業を展開しています。

環境ふくい推進協議会会員数（令和7年11月末現在）

企業会員	207 社
団体会員	126 団体
個人会員	947 人
行政	18 自治体（市町・県）

また、環境ふくい推進協議会では、県内における企業、団体、行政等の環境に関する活動や情報の共有を図るため、専用のホームページを開設しています。各主体が環境に関するイベント情報やお知らせを自由に掲載、閲覧することができ、情報共有の場として活用しています。

表5-3-3 環境ふくい推進協議会の主な取組み

主な取組み	令和7年度	
環境保全活動 促進協働事業	1 協議会会長表彰	6 環境教育推進事業
	2 環境セミナー等開催事業	7 プラスチックごみ削減推進事業
	3 市町環境連携事業	8 ふくいの環境を守るための資格取得支援事業
	4 こどもエコクラブ活動促進事業	9 カーボンニュートラル普及推進事業
	5 SATOYAMA 国内ネットワーク推進	
普及広報事業	1 情報誌「みんなのかんきょう」発行事業	
	2 ホームページ等による普及広報	
	3 メールマガジンの配信による普及広報	
	4 「ふくいっ子に体験して欲しい50の自然体験」普及広報	
	5 各市町環境フェアにおける普及広報	
県補助事業	1 環境アドバイザー派遣事業	
	2 リペア・リユース推進事業	
	3 家庭の省エネ（デコ活）推進事業	
	4 ふるさと環境フェア開催事業	
団体助成事業	環境ふくい未来創造事業	

図5-3-4 環境ふくい推進協議会ホームページ画面



(5) 環境に関する表彰

県では、地域で様々な環境活動を行っている個人や団体の努力に報いるため、また、今後の活動の励みとしていただくため、積極的に各種表彰制度に推薦しています。また、応募形式による表彰制度につ

いても、対象者等に情報提供などを行っています。
令和7年度において表彰を受けた個人や団体等は、表5-3-5のとおりです。

表5-3-5 環境に関して表彰を受けた個人・団体・企業・学校（令和7年度）

表彰名	目的等	表彰者	被表彰者
環境ふくい推進協議会会長表彰	環境保全活動に関し、地道にたゆまぬ努力を続けている個人、団体、学校、企業で、その活動が賞賛に値する者を表彰	環境ふくい推進協議会会長	【個人の部】 黒川 英雄 (福井市) 高橋 健二 (福井市) 【団体の部】 西藤島庭友会 (福井市) ふくい市民共同発電所を作る会 (福井市) 「小さな親切」運動 敦賀支部 (敦賀市) 万葉リサイクル友の会 (越前市) 坂井市赤十字奉仕団 坂井分団 (坂井市) 【学校の部】 小浜市加斗みどりの少年団 (加斗小学校) (小浜市) 【企業の部】 株式会社田んぼの天使 (越前町)
環境ふくい推進協議会 功労者表彰	環境ふくい推進協議会の設立30周年を記念して、協議会の発展に尽力いただいた方々を表彰	環境ふくい推進協議会会長	畑中 雅博 皆川 陽一郎
愛鳥週間用ポスター原画コンクール表彰	ポスターの制作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めるとともに、愛鳥週間の普及啓発を図るため優秀作品を表彰	福井県知事	【知事賞】 山下 花音 (福井市和田小学校) 石黒 香音 (福井大学附属義務教育学校)
「みどりの日」自然環境功労者大臣表彰	自然環境の保全に関し、顕著な功績があった者（又は団体）を表彰	環境大臣	幅口 隆一 野村 みゆき
自然公園指導員表彰	自然公園指導員として永年にわたってその職務に精励し、その功績が特に顕著である者を表彰	環境省 自然環境局長	小嶋 明男

分野別施策の実施状況

2 環境情報の収集と提供【環境政策課】

県民や事業者の環境への関心を高め、環境への負荷の低減に向けた取組みを促進していくためには、環境に関する幅広い情報をわかりやすく、迅速に提供することが重要です。県では、インターネットや情報紙など様々な媒体を通じて、環境情報を提供しています。

このシステムは、大気や水質等の環境状況等の情報を集約化し、地図や表などにより表示するもので、インターネットのホームページ「みどりネット」から利用できます。

みどりネットのアクセス件数(ページビュー)は、次のとおりです。

(1) 「みどりネット」の整備、運用

県では、各種の環境情報をデータベース化し、行政内部での活用にとどまらず、広く県民に提供する「環境情報総合処理システム」を平成12年3月に整備しました。

表5-3-6 みどりネットのアクセス件数

	令和4年度	5年度	6年度
アクセス件数	3,715,546	2,374,334	2,333,731

各分野に共通する施策の推進

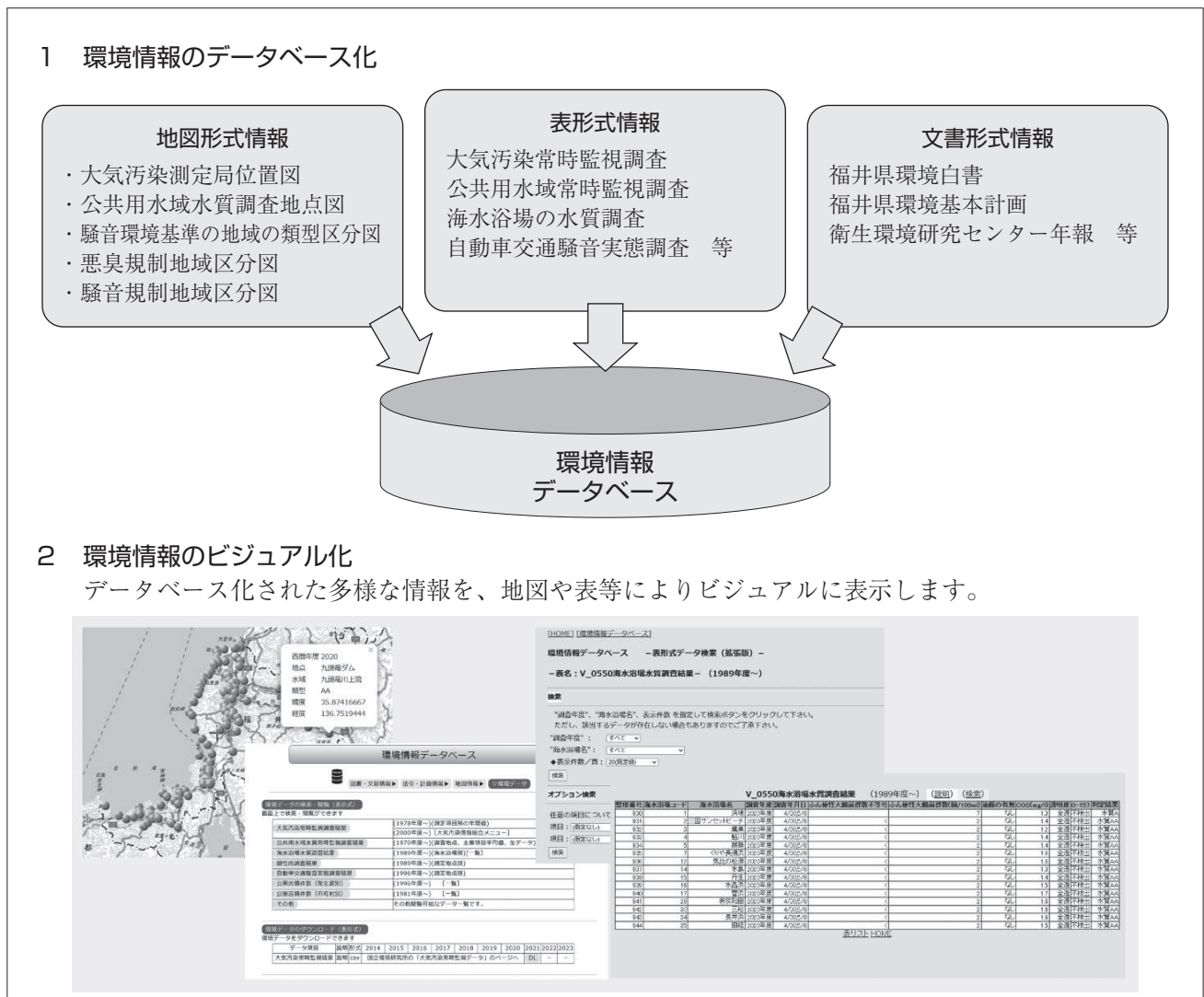
◆第2部 分野別施策の実施状況

図5-3-7 環境情報総合処理システム（みどりネット）画面



(URL <http://www.erc.pref.fukui.jp/>)

図5-3-8 環境情報総合処理システムの概要



(2) 環境月間を中心としたイベント情報提供など

環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする6月の1か月間は、「環境月間」とされています。県においても、県民の環境問題への関

心と理解を深め、環境の保全に関する活動を行う機会とするため、6月を中心に様々な行事を取りまとめ、ホームページ等で紹介しています。

表5-3-9 令和7年度「環境月間」の主な実施行事

【県民参加行事】

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
カー・セーブデーの実施	交通まちづくり課	公共交通機関や自転車の利用促進とCO ₂ (二酸化炭素)の排出量削減のため、過度な車の利用を控えるカー・セーブデーを実施。	6月毎週金曜日	県内全域
ふくいSDGsフェス	未来戦略課	福井県出身の美術家・長坂真護(MAGO)氏と協働でSDGsを広く啓発。	6月1日(土)、 2日(日)	西武福井店
クールビズの実施	環境政策課	冷房時の室温(目安として28℃)の適正管理と軽装(ノー上着、ノーネクタイ)勤務を実施。	5月1日(木) 10月31日(金)	県、市町、 賛同団体・事業所
クリーンアップふくい大作戦	県、市町	6月の統一行動期間に居住地、工場・事業場周辺等において、清掃、草刈等を行い、県民、各種団体、行政が一体となって美化活動を実施。	6月1日(日) 6月30日(月)	県内全域
週末天体観望会	自然保護センター	毎週テーマを決めて、季節に応じた天体の観察と、星座や天体の学習を行う。	6月毎週土曜日	自然保護センター
自然観察シリーズ	自然保護センター	毎回異なるテーマに沿ったガイドの解説を聞きながら、自然観察の森を散策する。	6月毎週日曜日	自然保護センター
第14回みどりと花の県民運動大会	緑と花の県民運動推進委員会(森づくり課)	第60回全国植樹祭を契機に展開している「緑と花の県民運動」を推進するため、「みどりと花の県民運動大会」を実施。第47回全国育樹祭式典行事で行われる「緑の贈呈」用苗木の受渡式や、緑や花に親しむ様々な体験型イベントを実施。	6月1日(土)、 2日(日)	総合グリーンセンター
九頭竜湖コクチバス一斉駆除	水産課	漁協、漁連、ダム管理者、福井県内水面総合センターと協力し、コクチバスの駆除を実施。	6月11日(火)	九頭竜湖
環境科学体験教室2025	衛生環境研究センター	地球温暖化や水環境について学べる体験型のイベントを実施。	6月21日(土)	福井県児童科学館 (エンゼルランドふくい)

分野別施策の
実施状況

各分野に共通する
施策の推進

◆第2部 分野別施策の実施状況

【普及啓発事業】

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
広報活動	福井県	新聞、テレビ、ラジオ、広報誌、SNS等で環境月間の趣旨や、環境美化・保全に対するPRを実施。	環境月間中	県内全域
環境月間パネル展	環境政策課	気候変動適応や省エネに関するパネルを展示し、地球温暖化防止に向けた意識啓発を実施。	6月17日(火) 6月22日(日)	福井県立図書館
マイボトル運動街頭PR	循環社会推進課	マイボトル運動チラシをハピライン福井駅西口で配布し、PRを実施。	6月2日(月)	ハピライン福井駅
プラスチックごみ削減に関する啓発パネル展	循環社会推進課	マイボトル運動や海洋プラスチックごみ問題に関するパネル展示を実施。	6月2日(月) 6月6日(金)	県庁ホール
プラスチックごみ削減フォトコンテスト2025	環境ふくい推進協議会(福井県循環社会推進課)	プラスチックごみ削減に向けた取組事例の実践を促すため、抽選でプレゼントが当たるフォトコンテストを開催。	6月1日(日) 8月31日(日)	—
ポイ捨てストップキャンペーン	循環社会推進課	自動車運転者や施設の利用者に対し、プラスチックごみポイ捨て防止にかかる広報チラシと啓発品を配布。	年間	県内全域

【監視・指導強化】

行 事 名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
環境パトロール	循環社会推進課 各健康福祉センター	工場・事業場、廃棄物処理施設、道路、河川、海岸等のパトロールを実施する。	年間	県内全域
	自然環境課	自然公園内およびその周辺の違法行為等の監視を行う。	環境月間中	国立公園・国定公園・県立自然公園
スカイパトロール	循環社会推進課 県警本部航空隊	県警ヘリ「くずりゅう」による空から廃棄物の不法投棄等発見のための監視パトロールを実施する。	6月9日(月)	県内全域
環境犯罪取締り	県警本部生活環境課 県下各警察署	廃棄物の不法投棄、野外焼却事犯等の環境事犯の取締りを実施する。	年間	県内全域
隣県(石川・滋賀・岐阜)との合同路上検査	循環社会推進課 各健康福祉センター	福井県と隣県との県境付近において産廃積載車両の路上検査を実施する。	年間	福井県と隣県との県境

(3) 刊行物

【環境政策課、循環社会推進課、自然環境課】

水、大気、自然、廃棄物等の様々な環境の課題や、県の取組み等について、情報紙やパンフレット等の刊行物の作成・配布を行い、環境に関する情報を提

供しています。また、これら刊行物の一部は、県や環境ふくい推進協議会のホームページ、みどりネットにも掲載しています。

表5-3-10 令和6年度 環境関連刊行物

刊行物の名称	発行状況	頁数	発行部数	備考
みんなのかんきょう 30周年記念特別号 (第77号)	年1回	21	2,500	環境ふくい推進協議会情報誌
ふくいっ子に体験してほしい50の自然体験 +地球温暖化を防ぐ10のできるこ	年1回	26	6,000	令和7年度からは電子配布へ移行
令和6年度版 環境白書	年1回	156	350	
令和6年度版 環境白書(資料編)	年1回	119	50	
令和5年度 公共用水域および地下水の水質 の測定結果報告書	年1回	103	HP公開	
令和7年度 公共用水域および地下水の水質 の測定に関する計画	年1回	51	HP公開	
FUKUTEKI-気候変動適応センター通信-	年4回	4	2,000	
福井県認定リサイクル製品パンフレット	年1回	16	900	
令和5年度衛生環境研究センター年報	年1回	80	70	
福井県衛生環境研究センター公式note	随時	10	HP公開	
令和6年度福井県鳥獣保護区等位置図	年刊	図1枚	2,000	
福井県自然保護センター研究報告 「キコニア第28巻」	年1回	166	400	
令和6年度年報(福井県自然保護センター)	年1回	38	350	福井県自然保護センター事業概要
海遊(活動の記録)第25号	年1回	52	HP公開	福井県海浜自然センター事業概要
自然保護センター行事案内	年1回	2	2,000	
海浜自然センター行事案内	年1回	8	HP公開	
海浜自然センター行事案内(カレンダー)	年1回	1枚	1,200	
自然保護センターリーフレット	随時	2	1,000	
自然保護センターニュース	年4回	4	HP公開	
福井県里山里海湖研究所リーフレット	随時	4	500	
福井県里山里海湖研究所年報2024	年1回	44	400	福井県里山里海湖研究所事業概要
年縞博物館 広報三つ折りパンフレット	随時	2	12,000	
年縞博物館 特別展副読本	随時	17	18,000	
福井県年縞博物館年報 第6号	年1回	50	200	福井県年縞博物館事業概要